

第3章 国際社会に生きる日本人の自覚

3 儒教と日本人の思想形成

2 儒教の日本的展開（教科書 P. 95～97）

●日本の陽明学 [p. 95]

[] (近江聖人, 近江に私塾「藤樹書院」を開く)

→ [] がすべての道德の根本 (父母への孝行にとどまらない)

[] 学をとり入れ, [] (すべての人間の生まれつきの道德能力)
の發揮を主張

→門人に熊沢蕃山ら

●古学 [p. 95]

[] (仕官せず→京都堀川に私塾「古義堂」を開く)

→朱子学は, 外面はつくろえても, 内面の誠意や愛は欠如

→人倫の本当の和合を破壊

① [] =道德の根本—「真実無偽」「わたくし」のない心情の純粹さ

↓ 日常で努めるべきもの

② [] =ともに「まこと」の意→他者に対する心情の真実さに生きること

「己の心を尽くして朴実に行ひ去る」

→人倫の和合, 「清明心」を尊ぶ日本人の伝統的倫理観

③古学 ([]) の方法=朱子学は後世の儒教解釈

→直接『論語』『孟子』にかえる

④ [] の道=本来の儒教が説くのは観念的な理ではなく,

身近な人倫の道のみ

[] →朱子学の観念的修養説を批判

古学の立場=直接古典を学ぶべき

[] の体系化

=儒教の立場から道德指導者としての武士のあり方を説く

●古文辞学 [p.97]

[] → 「古学」 → 「古文辞学」創始

① [] 学 = 古語はその当時の言葉遣い・風俗・制度などをふまえて
理解されるべき

↓ 『論語』以前の六経（『易経』『詩経』『書教』『春秋』『礼記』『楽経』）にもどる

② [] の道 = 道とは、天然自然に備わっているものではなく、

孔子以前の帝王が、天下を治めるために [] ・制作したもの
= [] （儀礼・音楽・刑罰・政治）としての道
→この道にしたがえば、おのずと世が治まる

↓

③ [] の道 = [] の道、社会全体を視野に入れた政治的・制度的な道

↓

明治期、西洋の政治的・社会的諸制度を採用する基盤